

ハートライフ病院が発行する医学生と研修医のための情報誌

LIFE

ドクターズスペシャルトーク
初期臨床研修は
背伸びしすぎない
自分で過ごすことが大事
金城 太貴 × 銘苅 康太郎

ドクターズスペシャルトーク 初期臨床研修は背伸びしすぎない 自分で過ごすことが大事

金城 太貴 × 銘苅 康太郎



きんじょう たいき 医師
金城 太貴

糸満市出身、37歳。琉球大学医学部卒。ハートライフ病院にて初期臨床研修を修了後、当院循環器内科研修。その後、循環器では日本トップレベルの心臓血管研究所付属病院で3年間の専門医研修。現在は循環器内科専門医として、心臓カテーテル、PCI、不整脈のアブレーション治療をメインに行っている。循環器内科副部長。医師13年目。既婚。子供は2人。

各科の隔たりがほとんどなく 研修医の数もちょうど良かった

金城：今日は銘苅先生とざっくばらんに話す機会をもらえて楽しみです。

銘苅：僕もうれしいです。よろしくをお願いします。

金城：普段の回診とかカテーテル治療なども一緒だし、よく話す方だね。

銘苅：はい。いつもご指導いただきありがとうございます！さっそくですが、金城先生が初期臨床研修をハートライフ病院に決めた理由を教えてください。

ださい。

金城：約13年前に県内外のいくつかの病院見学をした際、当時のハートライフ病院の雰囲気を見て決めました。研修当時は私を含めて研修医は5人で、他の病院より人数が少ないですが、逆にみんなの顔が見えてアットホームな感じが自分に合っていると思いました。

銘苅：僕もそうですね。大学在学中の病院実習で県内の病院をほぼ回った中で、ハートライフ病院は医師の先生方はもちろん、ナースやおオベ室、ER、事務の方までもみんな優しく親切だった

不安や迷いの多い初期臨床研修の病院選びや専門科の進路。医師を目指す医大生にとって、この2年間をどう過ごすかがその先のより良い医師生活の未来につながっています。

現在、初期臨床研修の真ただ中で奮闘する新人研修医とハートライフ病院で初期臨床研修を終え、勤務を続ける中堅医師が当時の体験や本音を交えたスペシャルトーク。

「ハートライフ病院」に脈々と流れる、病院全体で温かく優しく研修医を見守るアットホームな心地よさ。そして継続的に無理なく働くためのワークライフバランスにも注目です。

めかる こうたろう
銘苅 康太郎 1年目研修医

うるま市出身の27歳。琉球大学医学部卒。初期臨床研修1年目。2021年4月から外科での研修を行い、6月から2か月の予定で循環器内科にて研修中。専門医研修については1年以上先のため、進路はまだ未定。趣味はフットサルとサッカー観戦。自炊もこなし、得意メニューはパスタ料理。

ので、「ここだ！」と決めました。

金城：初期臨床研修中は、科に関係なくいろいろな先生方が相談に乗ってくれたり、わからないことはいつでも丁寧に答えてくださった。

銘苅：そうですね。そこは今も変わってないのでは？みなさん本当にフレンドリーですよ。わりとフレキシブルに科も選べますよね。

金城：例えば外科で研修していても、産婦人科で手が足りなければヘルプに回る事例もあったりして、各科の隔たりをあまり感じないよね。自分も含めて、研修医は「どこにも求められていない」

ということに不安や無力感を感じる気がするけど、手伝いをお願いされて必要とされているとうれしくなるよね。

銘苅：確かに。あと、この科ではちょっと長めに学びたいとか、すべての科を回った後でもう1回この科で学びたいというのもOKで、研修医にすごく寄り添ってくださる。

金城：研修が始まって3か月経ったけど、実際に体験してみて何か感じたことはある？

銘苅：短い期間で多くのことを学ぶので、毎日ごとにかく慌ただしいです。学生の頃と違って直接

患者さんに接しますし、給料もいただいているので責任が伴います。現場では先生方の接し方も多少は厳しくなりますが、それでも優しく丁寧に教えてくださいなのでありがたいです。やっぱりこの病院で良かったです。

県外病院への研修機会も豊富

銘苅：今日ぜひ聞きたかったのが、金城先生が循環器内科を選んだ理由です。

金城：実は最初は麻酔科志望でしたが、初期臨床研修の2年間で救急や当直を担当する中、1分1

秒を争うことが多い循環器領域をしっかり克服できず、結局怖いまま終わってしまった。その時にタイミングよく尊敬する循環器内科の先生方に「1年間だけ循環器内科をやってみないか？」と誘われ、それならやってみようと思った。

銘苅：じゃあ、その1年が人生を変えたんですね。

金城：そうだね。心臓は勉強していた方がいいと思ったのと、やっていくうちに少し自信が付き夢中になれた。できないことがあったから逆に続けたいと思い、今に至っています。

銘苅：金城先生は県外にも学びに行っていますよ

ね？

金城：循環器内科に入った年の後期（3年目）の終わりには、済生会熊本病院で3か月研修を受けました。そこは他県からも研修目的に多くの人が集まる大規模病院で、症例の実績も多く同世代の若手医師たちが現場で意欲的に働いていてとても刺激になったよ。

銘苅：僕も機会があったら行ってみたいです。その後、東京でも研修を受けたんですね？

金城：心臓血管研究所付属病院でカテーテルアブレーションを中心に3年間の専門研修を行いま

した。異常な電気信号を発している心筋を焼灼する治療で、これまで当院での治療経験は少なく、不整脈に苦手意識もあったので良い機会に恵まれました。動悸で困る患者も多くいるので、これからますます発展する分野だと思いますね。

銘苅：先生の研修をきっかけにハートライフ病院でも導入されたそうですが、僕はまだ見たことがないのでぜひ見学したいです。

金城：私もまだ独り立ちできるほどのレベルではないので、心臓血管研究所付属病院の先生に沖縄まで指導に来て頂いて一緒にやっています。月に数件しかないので、まだ症例が少ないのは反省点ですが、当院はこういった形での学びのチャンスは本当に多くて、上司や先輩含めて病院全体でも支援して頂けるので本当にありがたいです。

銘苅：若手に道を拓いてくれて本当にありがたいです。

育児や家事も夫婦で分担 ゆとりある ワークライフバランスの実現

銘苅：2児のパパである金城先生ですが、家事や育児の分担はどうしてますか？

金城：うちは妻も大学病院のドクターで共働きです。5歳と2歳の子供がいますが、ほとんどの家事や生活面のサポートは妻がしてくれているので、子供の送迎や皿洗い、洗濯などで手伝える部分はやるようにしています。

銘苅：下のお子さんが生まれた時は育休を取ったそうですね。

金城：うちの病院はワークライフバランスがとても優れていると思いますよ。私が取得したのは正確には育休ではないですが、妻の出産後1か月は時短勤務にしてもらって、科の先生方の協力や理解を得て、当番勤務を外して入院患者を持たなくても良いようにしてもらいました。

銘苅：すごく画期的！いつか参考にしたいです。



カテーテル治療の様子

金城：普段も基本的には夕方5時半頃には帰宅できます。長く安定的に勤めるならプライベートの時間を確保しやすいのは大事なことだね。

銘苅：研修1年目の僕は、指導を受けた先生のアドバイスで朝と夜、病院で1時間ずつプラスして勉強に専念してます。

金城：素晴らしいことだね。プライベートの充実やリフレッシュも大事だよ。私も趣味のマンガを読んだり、サッカー観戦も楽しんでます。

銘苅：僕も仲間たちと週1でフットサルをしていました。コロナが早く落ち着いて復活できるといいですね。

率先して現場 = 病棟へ 出向くべし！

銘苅：研修医を受け入れる際に心がけていることはありますか？

金城：アカデミックではないですが、心得のようなものを重点的に伝えているかな。例えば、カルテの電子化で病棟にいなくとも医局で業務ができるようになったけれど、「なるべく病棟で仕事をするように」と伝えています。病棟に行けば看護師に顔を覚えてもらえるし声をかけやすくなる。さらには患者急変の初期対応にスムーズに対応できて、学びの機会が増えると考えているからです。



銘苅：医師も「現場」が大事。肝に銘じておきます！

金城：現場では患者さんのことを一番良く知っている看護師から学ぶことが山ほどあります。研修医は上の先生と看護師をつなぐ役割であって欲しい。病院内のコメディカルスタッフとよく話すことは、職種や科を越えたチーム医療の連携や、医師に必要なコミュニケーション能力を養うことにも役立ちます。

銘苅：いいことばかりですね。

金城：まだ先のことだけど、銘苅先生は後期で進みたい科は決めているのかな？

銘苅：血液内科などいくつか候補があってまだ絞れていません。心臓は苦手意識があったので、初期研修で絶対に循環器内科を回ろうと決めていました。まずはいろんな科を回りたいですが、今日聞いた金城先生の「循環器内科にまずは1年」という働き方に興味を持ちました。

金城：どんな遠回りでも意義はあると思っています。仮に循環器内科を選択した後で、他に転科することになったとしても、その期間は強みに変わるし無駄ではないと思いますよ。

銘苅：それ、ありがとうございます。参考にします。

金城：これから医師を目指す医大生にアドバイス



やメッセージはある？

銘苅：研修先を決める際の条件は人それぞれで、何にでもメリット・デメリットがありますが、自分次第でデメリットを少なくできるならよしとすべきです。例えば僕の場合は、神経内科にも興味がありますが、当院では神経内科を研修できません。しかしそのデメリットは他院で研修することでクリアできます。逆に消せないデメリットはほとんどないため、概ね満足していますね。

金城：私は、学生が研修先の病院選びや進路を考える時に、「背伸びしすぎないことも大事だよ」と伝えたいです。若いうちこそ無理がきく、経験を積むべきという側面があることも分かっていますが、それ以上に負荷をかけることはないのかなと考えています。当然、負荷をかければかける

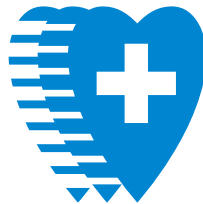
だけ成長する人もいるので、一概には言えません。まずは自分がどういう人間か理解すること、そうすれば自分の能力や性格に見合った病院や科を選択することができると思います。

銘苅：金城先生のように最初の希望と進んだ科が結果的に違う場合もありますよね。

金城：そうそう。経験することで自分の新しい可能性や適性に気が付くこともある。ハートライフ病院の研修プログラムなら、悩んだり迷ったりした時もフレキシブルに相談に応じていますよ。

銘苅：病院全体が研修医を見守ってくれるハートライフ病院は、若いドクターも多いので活気があります。一緒に成長しましょう！

“まずは自分がどういう人間か理解すること、
そうすれば自分の能力や性格に見合った病院や科を
選択することができると思います”



社会医療法人かりゆし会

ハートライフ病院

所在地 〒901-2492
沖縄県中頭郡中城村字伊集 208 番地
ホームページ <https://www.heartlife.or.jp/hospital/>

病床数 **308** 床 診療科数 **32** 科

特徴

当院は地域医療支援病院であり 24 時間の救急医療を提供。32 の診療科に加え、各種専門外来、内視鏡センターや予防医学センターのほかにも沖縄県内で骨髄移植を完結できる「無菌治療センター」などの専門治療を行う中核病院です。



採用情報



臨床研修医 HP